

木の葉は濡れていて、地面もぬかるんでいて危険なので、本来は中止とするところでしたが、高島高校の生徒さんがボランティアで参加してくれていることもあって、草刈り鎌をつかわずに、手で草を抜き取る安全な軽作業を中心に短時間行うことにしました。

前ページのマップのGエリア赤枠縦縞部分が作業を行った場所ですが、ここより東のA地点＝小橋の東側、ホウチャクソウの群落がある急斜面はコクサギがまばらに生えているだけなのでサービスセンターが機械刈りで担当、Bの小橋の下は2年間にわたるツタとアケビの抜き取りが奏功して、今年は草刈りの必要性が切迫していないので手を付けませんでした。

それでも、Cの場所が残ってしまいました。ここは初夏にはキツネノカミソリが群落をつくる

ところで、今はコクサギが繁茂しています。「1年間草刈りを行わないと、翌年はどうなるのか」の観察エリアとして、来年の状況を見守ることにしました。

全参加者24名（うち高島高校の生徒さん7、サービスセンター3）、みなさん、頑張りました。



◆◆ニリンソウ自生地保護活動40周年◆◆

「林の中でのお茶飲み会」で今年を打ち上げました



もうひとつ、サービスセンターが呼びかけている「クリーンアップ・キャンペーン」に呼応してゴミ拾いも行いました。

このレポートのヘッドに記(しる)してありますが、1982年にここのニリンソウの保護活動が手掛けられて、今年で満40年になりました。作業終了後、温かいお茶とささやかなお菓子で、40周年の「お祝い」をしました。「乾杯」の音頭を取ってくれたのは参加者の中で最高齢の宮澤さんです(左の写真)。



さて、この草はなんだ!?

落ち葉の下から小さな葉を出している草があちこちで観られます。左はヤエムグラ、右はフラサバソウです。



ニリンソウが葉を伸ばしてくる2月～3月にはこれらの草も背丈を伸ばしてニリンソウを隠してしまいます。こうした草を適度



に抜き取る作業を春のニリンソウ展葉・開花期前に行わなければなりません。**手入れ活動はまだまだ続きます。**